

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成 29 年9月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	38701022401
事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	花
記入者(管理者)	
氏名	西田 涼子
自己評価作成日	29 年 8 月 30 日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○ 身体拘束をしないケアの実践 2階ユニットのドアを施錠していることについて……平成27年12月1日から昼間の施錠を解除し、以後全くなし、急にユニットから出て後を追いかけるケースもあったが、そのことによる問題発生は現在のところ特にない。 ○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう日常的に交流ができていない。……地域の福祉祭りや運動会、ホーム主宰の夕涼み会や町内会主催の盆踊り大会などで入居者と地域の方のふれあいができ、最近では地域の方も気軽にホームを訪れ職員と談笑することもあったが、入居者と直接ふれあうケースはまだあまりすすんでいない。今年の春から毎月1回地域の方がボランティアでユニットに入り、紙芝居や体操をおこなっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 グループホームは3ユニットあり、デイサービスが併設されている。男性の職員も多く、施設全体に活気がある事業所内では利用者が思い思いに過ごしており、穏やかな雰囲気も感じられる。閑静な住宅街の中にあり、近所にある公園の散歩では四季折々の花を眺めることが楽しみの1つとなっている。地域との関わりを大切に、地域行事や事業所行事を通じて積極的な交流を楽しんでいる。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前の暮らしぶりや入居時のご事情、状況を参考にお一人ひとりの普段の生活からできることや暮らし方を把握している。	◎	/	○	生活の中で利用者一人ひとりの意向を丁寧に把握し、意向に沿えるように支援に努めている。暮らし方の希望について介護記録などに記入し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	常に入居者の視点に立って考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	分からないことはご家族様と相談している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録等に記入し、申し送り等で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	普段の生活から見落とさないよう気をつけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	関わりのある方から情報を得ている。	/	/	○	利用者や家族、またこれまで利用してきたサービス事業者から聞き取り、生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を得て、入居前の生活リズムを崩さないように努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の生活からできること、できないことを把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	生活を記録して把握できている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ショートミーティングにて不安要因の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護記録への記入を行い、特変あれば申し送り等で情報を共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎日のショートミーティングで課題の把握に努め本人の視点に立って検討している。	/	/	○	利用者ごとにサービス担当者会議を開催し、家族の参加を得たり、電話で意見を伺いながら本人視点での検討に努めている。毎月開催するカンファレンスで職員間で情報を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	サービス担当者会議やカンファレンスにて現状の把握とその方にとってのよりよい暮らしについて検討し、ケアプランの見直しなどを行なっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議の報告書にて検討した内容の課題を明記している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	検討した内容を支援計画書に反映し、実施している。	/	/	/	利用者や家族と話し合った内容を毎月のカンファレンスで話し合い、意見を出し合って介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々の生活やご家族からの希望を話し合い、支援計画書に反映している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	「その人らしい生き方」に添った支援計画書を作成し、実施している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族や友人、知人との面会、地域の行事への参加などが盛り込まれている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	計画書と介護記録が一致するようにしている。また、計画書が変更されたり、更新されたときは全員が必ず目を通してしている。	/	/	◎	介護計画に沿った記録を取っており、内容を理解している。個別記録は番号で整理され、日々の支援内容を詳細に記録しているが、利用者の発言内容や具体的な様子、また職員の気づきやアイデアなどが盛り込まれることに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画書に基づいて担当者会議にて報告し、評価表の作成と実施記録表に達成度の記入を行なっている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	計画書に基づいて日々の様子を介護記録に記入している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	細かく記録し、改善につなげている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	短期は1ヶ月、長期は3か月とし、定期的に見直しを行っている。必要時はその都度変更を行なっている。	/	/	◎	3か月毎に介護計画の見直しが確実に行われ、毎月のミーティングで現状を確認したり、毎週モニタリングを実施することで変化を見逃さないように工夫されている。状態の変化に応じて随時見直しを行い、家族と状況を確認しながら新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に1回担当者会議を開き確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入退院等生活環境に変化があった場合はその都度生活支援計画書の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	日々ショートミーティングを開催し、情報の共有と課題解決に努めている。また、状態観察をおこない、サービス担当者会議を開催している。	/	/	○	ユニットごとのミーティングを毎月開催し、3ユニット合同のユニット責任者会議を月2回開催することで、全体の状況を確認し、話し合うことができている。参加できない職員も含め議事録を確認して内容を正確に伝え、押印でチェックしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個々が意見して会議を有意義なものにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	出勤しているスタッフでのミーティングとなっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容は記録に残し、いつでも見れるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	議事録や申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。	/	/	◎	会議録や申し送りノートを確認することで、職員間で情報を共有し、押印でチェックしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	即時に反映すべき情報等は申し送りノートの活用や口頭で伝え連絡・相談を行なっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日、その日で何が出来るか考え実行している。	/	/	/	利用者の「その人らしい」暮らしを支援できるよう心がけており、その日したいことを利用者を選択してもらったり、こだわりが強い方や几帳面な性格の方、それぞれの利用者の個性を尊重し、できるだけ思いに沿うように支援に努めている。利用者が発言しやすいように、明るい雰囲気づくりや細やかな声かけに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定ができることは、できるだけご本人に考えて頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	納得できるように働きかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の習慣を大事にして支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気作りをしている。	○	スタッフが明るく元気に努め、雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情からでも本人の思いが受け取れるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人生の先輩であることを考え接することができる。	◎	◎	◎	人生の先輩であるという尊敬の念をもった対応を心がけ、会話する際には目線を合わせ、利用者の話に耳を傾ける様子が伺えた。丁寧な声かけや誘導の際には説明を行い、羞恥心に配慮が必要な場面にも適切な対応ができています。居室への出入りはノックや挨拶を行い、プライベートな場所である旨を理解している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレの声かけなど大きな声で周りに分かるような声かけはしないようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	言葉がけは特に気をつけている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際はノックや挨拶をし、ご本人に配慮しながら出入りに気をつけている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシーを守り、個人情報の管理に気をつけている。外部からの問い合わせにはホーム長の許可が必要となっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	食器拭きやタオルたたみなどお手伝いをしてもらったときは感謝の気持ちを伝え、良好な関係作りに努めている。	/	/	/	職員は利用者の様子をよく観察し、利用者同士の相性やその日の様子を見ながら、職員が間に入ることで、穏やかに過ごすことができている。利用者同士もお互いに声をかけたり、誘いあったりしながら生活している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	助け合えるよう配慮できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	必要があれば間に入り、入居者どうしが良い関係になれるよう雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要があれば席を変える等行なっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントで確認している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントやご本人との会話で確認している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会等あればゆっくり過ごしていただいている。馴染みの場所など出かける際はご家族の協力で行なっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室でゆっくり過ごしていただいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ドライブを計画したり、家族様と連絡をとり合い外出できるように支援している。また、職員とともに個人の買い物やホームの必要物品買出しと一緒に出かけようとしている。	○	○	◎	「お寿司を食べたい」といった利用者の希望を取り入れた外出計画をユニット毎に立案し、実施している。事前に外出先のトイレなどの設備を調べ、快適な外出支援ができるように配慮している。重度な利用者も体調などに配慮しながら、戸外で過ごす機会を取り入れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の行事などに積極的に参加し、外出の機会を多くしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調等考慮しながら近くの公園などにいくなど取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	毎月1回ユニットの行事として外出を計画、また年1回はホーム全体でご家族と一緒に日帰りバス旅行などを行なっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者一人ひとりの身体状況や心理症状、こだわり等について着目しながらケアを行なっている。	/	/	/	リビングでのテレビ体操や長い廊下を活用した歩行訓練のほか、エアロバイクを漕いだり、選択や掃除といった家事を通じ、自分でできることは継続してもらうように支援し、環境を整えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの健康状態を観察し、早めの対応で残存機能の維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご自分でできることはご自分で行なうよう自立支援に心がけている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人やご家族からお話を聞き、楽しみごとや役割を把握し援助できるよう努めている。	/	/	/	体操の号令を男性利用者が役割として担い、それを楽しみにしている様子が伺えた。不穏な状態が続く利用者も、これまでの趣味を支援に活かし、手先を使う折り紙や字を書くことによって平静を取り戻したケースもあり、楽しみごとや役割を通じていきいきとした暮らしへと導いている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ご入居者の体調や障害に合わせて農作業や洗濯物を干したり、たたんだり、食器拭きや折り紙、字の練習をしてもらっている。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の催しに参加できるようご案内している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の希望も聞きながらその人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。				季節に応じた身支度ができており、近隣の訪問美容を利用したり、馴染みの理容室・美容室へ職員と一緒にいく利用者もいる。代表者のアイデアで衣料品の移動販売を実施し、好みの衣類を購入したりおしゃれ心が満たせる支援に努めている。重度な状態にある利用者には、家族の協力を得ながら本人らしさが保てるよう配慮している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型や服装など本人の好きなようにしてもらい、必要時はヘアカットや買い物と一緒にしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	一緒に選んだり、助言したりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節を感じてもらえるよう入居者と一緒に服装選びを行い気分の高揚に努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人の自尊心を尊重しながら介助を行なっている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望がある場合は、ご家族様の協力をいただきながら行なっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを大切に、家族様の協力のもと工夫・支援を行なえるよう努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	入居者の皆さんは食べることが大好きである。食事の話をするとうれしくなる。台所とリビングが繋がりがり食事の準備がはじまると皆さん集まり、今か今かと待っている。食事は笑いを誘い、家族を感じる機会でもある。				利用者の好みやリクエストを取り入れながら各ユニットで月初に献立を考え、ネットスーパーでの注文・配達を利用している。下準備や後片付けなどできることはしてもらい、利用者同士でメニューの話や調理方法について盛り上がる等、会話が弾んでいる。食事の際には、自分の箸と湯呑みを使用し、旬の食材や季節感のあるメニューを職員と一緒に楽しんでいる。利用者の状態によって、トロミや刻み食の方もいるが、できるだけ一般食に近い形で食べてもらえるように話し合い、工夫している。重度の利用者も共に調理の香りを楽しみながら過ごし、食事介助では細かい説明を行い、口の動きをしっかりと確認して、ゆっくりと待つ姿勢が見られた。必要に応じて栄養状態に応じた食事支援の方法を主治医に相談し、アドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	かつては主婦であり、台所に立った経験があるお年寄りにとっては特別な働きかけをしなくても参加しやすい。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材の買出しはないが、メニューを見て食べる楽しみができ、他の入居者と一緒に後かたづけをすることで楽しい会話ができるなど自然と役割や自信が生れて笑顔も多くなる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好みや体質、嚥下状態など把握にも努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材を取り入れながら見て楽しめるよう彩り鮮やかに工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	咀嚼力や嚥下状態も観察しながら、できるだけ形や色合いを残すようにしてお年寄りの口にあった季節の食材や料理に気をつけている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時はできるだけご自宅で使い慣れた食器を持ってきていただき、その後はご本人が希望される物を購入し使っていたい。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も一緒に食事をとり、さりげなく食べる様子を観察し、必要時は援助している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	風症状など感染防止以外ではできるだけリビングで皆と一緒に食事を摂っていただいている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	ご家族様や主治医の協力をいただきながら栄養バランス、や水分摂取ができるよう努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事形態や本人が好んで摂ることができるものを用意し、ストローやスプーン、水のみ等必要に応じて工夫を試みている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	一人ひとりの好みなども留意し、より良いものをメニューに取り入れている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	衛生管理を日常的におこない、食材等の保存方法についても注意するよう努めている。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアが健康管理の上でも大切であることを理解し日々行なっている。	/	/	/	毎食後、歯磨きを実施し、できることはしてもらいながら、できないことを職員が介助している。歯科医師に定期的にチェックしてもらったり、毎週訪問する歯科衛生士に指導を受けることで口腔内の健康管理を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医師による歯の健康管理や定期的な訪問歯科衛生指導を取り入れ、早期発見、早期治療に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医師や歯科衛生士による指導を受け、おこなっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	正しい手入れの仕方について職員間でも必ず情報共有している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	ご自分でできるところはご自分でしていただきながら清潔を保てるよう援助している	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常がある場合は、必ず歯科医師に相談し、対応できるよう努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	高齢者にとって排泄はもっとも高い関心事であり、体調管理もさることながら、オムツやパットの使用を安易におこなわないようにしている。必要時はご本人やご家族とも相談している。	/	/	/	排泄管理票を用いて確認し、トイレでの自然排泄を基本としている。利用者の機能や排泄状態に合わせた排泄用品の選定を行い、安易な使用は控えている。また状態について家族や職員で話し合いを持っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	個々の病状や体調によっても異なるが日々の訴えから腹部膨満感や食欲不振、腹痛、嘔吐など諸症状がみられることを理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	介護記録や日々の排泄管理表を用いて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	そのときの状態に応じて対応している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	改善に向けた話し合いをスタッフ同士で行い、取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄管理表等を用い、排泄パターンの把握と異常を早めに見つけて対応している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	不愉快な思いをさせないようにいろいろ選択ができるよう支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の排尿量等把握し、その都度使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	特に問題がなければ乳製品等の摂取をすすめ、対応している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	一応予定はしているが、体調やそのときどきの入居者の気分で変更することもしている。	◎	/	◎	概ねの予定時間はあるが、ユニット内の一般浴槽で、毎回湯を入れ替えて気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。併設のデイサービスの機械浴槽を利用することも可能で、安全に利用することができる。その日の利用者の希望にしっかり耳を傾け、希望にできるだけ浴えるよう、コミュニケーションを大切にしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	浴室は一人浴槽であるため、シャワー浴だったり、浴槽に入ったり、入居者の希望に合わせて一人一人ゆっくりと入れるように配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	声をかけながらご自分でできることはご自分でしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	日にちを変更したり、ご本人の訴えに傾聴し、その都度対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	事前にバイタル測定をおこない、本人からの体調も伺い入浴の良し悪しを決めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録などから個々の睡眠パターンを把握し、職員間で情報を共有している。	/	/	/	夜間に徘徊したり眠れない利用者については、日中の過ごし方を振り返り、支援方法を話し合っで見直している。それでも眠れない利用者には、リビングで過ごしたり、テレビを見たりして、自由に過ごしてもらっている。服薬に関しては主治医に相談し、適切に支援できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	眠れないときはお話を聞いたり、お茶を一緒に飲んだりして対応するが、不眠が続く場合は生活リズムの見直しを図り昼夜逆転にならないようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護記録から不眠状況を把握し、様子をみながら日中の過ごし方などスタッフ間で話し合い、対応している。また、医師とも相談し対応している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々に居室があり、その都度声をかけ、お部屋でゆっくり過ごしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話の取り次ぎややりとりができるように援助している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	スタッフが声をかけ、手助けしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでもできるように対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やはがきが届いたときには本人に直接渡している。理解が難しい場合は面会時や郵送でご家族様に届けている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に確認をとり、協力してくださるよう努めている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	スタッフ同士で理解し、対応している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	お出かけ買い物に行く機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	本人に伝え、理解を得るようにしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	相談をまず、家族にし、使えるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	電話連絡をし、話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	きちんと話し合い同意を得て行なっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ニーズをきちんと把握し、その都度対応している。	◎	/	◎	親戚が大勢集まる100歳の御祝い会に、職員も付き添って参加する等、利用者や家族からの多様なニーズに柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	開放感があるように周囲の工夫をしている。	○	○	○	併設のデイサービスと共用の広々とした玄関は開放され、来客時には事務所職員がすぐに対応している。地域の役員が気軽に来訪する様子が伺えた。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	親しみのある空間作りに努めている。	◎	◎	◎	季節を感じられる花を飾り、利用者と一緒に作成した手芸品や行事に参加した際の写真を壁に貼ったりと、事業所の生活の様子を共有でき、楽しい雰囲気が演出されている。リビングから見える田畑の景色が心地よく、季節を身近に感じられるように配慮している。職員が毎日分担して掃除を行い、清潔感が保たれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	スタッフが気をつけ行なっている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活空間が分かるように工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	スタッフが入居者の間に入り工夫している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	戸を閉めるなどして見えないように工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご本人が使いやすい物を持ってきていただき、対応している。	◎	/	/	使い慣れたタンスやいす等を持ち込んでいる利用者も多い。希望があれば畳を敷く対応もしている。各居室にミニキッチンがあり、流し台は口腔ケアなどの洗面で使用している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手すり等を使用したり、できるだけ自立した生活ができるよう努めている。	/	/	/	利用者の状態に合わせて、気になる物には視界に入りにくいよう、目隠しの貼り紙を貼って工夫している。部屋を間違えないよう名前を貼っている方、目印になるような物を飾っている方など、個々の状態に応じた対応を行っている。廊下の角が死角になるため、壁にカーブミラーを取り付けている箇所もあり、利用者が安全に自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	ユニット長と相談して最小にするよう工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	今まで使用していた家具等をそのまま使用して頂いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	その都度、スタッフ間で話し合い理解に努めている	◎	◎	◎	玄関の施錠はなく、ユニット出入り口にチャイムを取付け、開閉時にチャイムが鳴るよう工夫している。虐待予防について、事業所内の拘束廃止委員会で話し合い、しっかり検討している様子が議事録で確認できた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族にその都度説明し、対応している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	入口にセンサーを設置し、その都度鳴れば対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	診療情報や個人情報をもとめているファイルから情報を収集することができる。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録にその都度記録を残し、早期発見、早期対応に努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医や看護師に相談・報告し、適切に対応できるようにしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	状況に応じて希望する医療機関で受診できるようにしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族と相談し、納得が得られるよう対応している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診前後の報告は勿論、必要時は医師、本人、家族を交えてカンファレンスを開いている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院先に看護、介護サマリー等情報提供を行なっている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の面会をはじめ、入院先で行なわれるカンファレンスにも参加して情報交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から連携をとって対応している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	ホーム長、看護師に相談し、医師との連絡・相談ができています。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談・連絡体制ができています。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	介護記録や申し送り等で常に時系列的变化をスタッフ間で共有し、医師の指示を仰ぐなど日頃から状態変化に対応できる体制となっている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬の内容等記載した処方箋の閲覧がいつでもできるようにし、必要時は申し送り等で注意喚起をしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬時は必ず、職員による2重チェックで飲み忘れ、誤薬防止に努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の変化を確認しながら対応している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬効果や状態観察を常に行いその都度医師に報告し、指示を仰いでいる。家族には病状変化による薬の変更など報告し、了承を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や状態変化に合わせて医師、家族を交えカンファレンスを開きご家族のご意向を確認しているが、ご本人の意思確認まではできていない。	/	/	/	看取りには積極的に取り組み、家族や医療機関等関係者で方針を共有し、話し合いの内容は丁寧に記録をとっている。最期まで事業所全体で看取る体制が構築されており、お別れのときは職員・家族だけではなく、他の利用者も一緒に見送っている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医師、家族を交えカンファレンスを開き、ご家族のご意向を確認し、職員にも共有している。	○	/	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	開設以来看取り介護をおこなっていることから、終末期の対応については平常と変わらぬ対応に努め、レベル低下に合わせてユニット長はじめ看護師、管理者、ホーム長などオンコール体制で医師と連携しスタッフを支えている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時に重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)を交わし理解を得ている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	カンファレンスを開きその都度、医師による説明が行なわれご家族様の思いや意思の確認を行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の心配ごとや思いを傾聴し、相談にのっている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職員研修を開催し、学ぶ機会を作っている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策など職員研修をおこない、マニュアルの作成などしているが訓練まではできていない。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	かかりつけ医からの情報や運営推進会議等で市の担当者による情報を得ている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報を共有してできている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	入居者はじめ職員もインフルエンザの予防注射を行なっている。ユニット出入りに手指消毒液とマスクを置き、感染予防の掲示を行なっている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時や電話連絡の際にご家族の思いや心配事など傾聴し、相談にのっている。				事業所から家族へのお願いとして、積極的に面会を依頼しており、家族はよく足を運んでくれていると感謝しており、来訪時には声かけし、関係性を良好なものにしている。また、面会時間の制限を設けず、気軽に来訪してもらえるよう配慮している。毎月利用者の暮らしぶりを書面で伝えるほか、家族アンケートを実施している。職員の異動や入退職を含めた運営上の事柄について、家族に理解できるよう伝え方の工夫を行って欲しい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会に来やすいように電話を入れ、来られた際にはお部屋で一緒におやつを食べて頂いている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	電話やお手紙でお知らせして各種行事に参加していただいている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お手紙やユニットニュースなどを発行し、ホームでの暮らしぶりをお伝えしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	往診結果や体調の変化、受診前後の確認と報告、ご本人からの心配事など報告し、ご家族様からの質問やご要望などにも丁寧に答えている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ホーム入居してから落ち着いてきたことや話し相手が増えて、最近ではお手伝いもして下さるなどホームでの暮らしぶりをお伝えしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお手紙やユニットニュース、お知らせ文で行事のご案内など行なっている。職員の移動、退職については責任者以外は特におこなっていない。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会の開催はできていないが、敬老会やクリスマス会年に1回の日帰り旅行などにご家族様の参加いただき交流が図られている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	ご家族と相談しながら安全に暮らせるように努めている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来所時や電話でお話をさせていただき、ご家族の心配ごとや気がかりなことなどお聞きし、丁寧に答えている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時には資料にそって丁寧に説明し、ご理解をいただいている				た
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	治療が優先されるケースではご家族様からの退去希望となり、それ以外では事前になんどもご家族とお話をさせていただき、退去先の確保が確認された段階で契約終了となっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	ご家族様にご連絡、報告の上ご了承をいただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	町内の皆さんとは普段から気軽にご挨拶ができ、地域の1員として各種町内会行事に入居者はじめ職員も参加している。運営推進会議にも出席をお願いしている。	/	◎	/	事業所駐車場で開催している夕涼み会等には100名を超える大勢の地域住民が参加しており、事業所が地域で徐々に認知されてきたと実感している。今後は、公民館行事への参加についても検討しており、利用者がさらに積極的に地域へ出かけて行けるよう支援していく予定である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内の皆さんとは普段から気軽にご挨拶ができ、地域の1員として各種町内会行事に入居者はじめ職員も参加している。また、ホームが行なう夕涼み会には地域の子供達や若い方々、高齢の方々も参加して下さる。運営推進会議にも出席をお願いしている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の役員の方々の理解がすすみ、大変協力的で何かと声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	ホームの行事案内を地域にお配りしていることから何かの時に覗きにきてくれることがある。最近ではホームでユニクロの訪問販売が、ご夫婦で買い物にいられた。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	最近では町内会の方やホームのすぐ傍の住民の方が気軽に立ち寄っていただけるようになった。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎月1回近くの方がボランティアに連れられ、紙芝居や体操などでご入居者と交流されている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	運動会や盆踊りなど町内会の行事に参加している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の福祉祭りへの参加や防災訓練、町内一斉清掃に参加し、関係を深める取り組みを行なっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	2ヶ月に1回開催し、町内会長や民生委員、包括支援センター、松山市、他の事業所(グループホーム)の参加を得ている。	◎	/	○	地域の方の参加は積極的で、近隣のグループホームからも参加がある。家族の参加が少なく、継続的に参加してもらえない点が、検討課題であると気づきを持っており、議題の工夫など参加者にとって有意義な会議にしたいと考えている。サービスの実際や評価への取組み状況を説明し、地域の情報交換やアドバイスなどの意見をもらい運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	ホーム長や管理者、各ユニット長から詳しく話されている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	情報交換をおこない、出席者からアドバイスなどいただいている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	取組んではいるが、ご家族様の出席がなかなか進まない。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	実施出来ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ホーム長と職員は理念の共有をしている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	理念を各ユニット毎に張り出し閲覧できるようにしている。	○	△			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	外部研修は希望者をつくり、参加してもらっている 内部研修は昨年までは時間外で行なっていたが、参加数が少ないため今年から昼間の時間帯にデイサービスの職員や利用者、ホームの入居者と職員が合同で研修 職員研修を定期的に行なっている				代表者は職員の悩みや相談に気軽に応じている。また、内外部研修への参加でスキルアップにつなげて欲しいと、就業環境の整備に配慮している。	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○						
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	行なっている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他の事業所の運営推進会議や地域密着型事業所交流会などにも参加して情報交換を行っている。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員から仕事上の悩みや健康面についての相談を受け、助言をしたり、要望を聞いている。	◎	◎	○		
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に虐待防止委員会をひらき、該当事例がないか職員間で共有している。また研修を通して理解に努めている。				虐待防止に関する研修を年2回実施し、拘束廃止委員会での話し合いの様子も議事録で確認できる。不適切なケアが見過ごされることのないよう該当事例がないか振り返りの機会も持ち、対応方法や手順について理解がある。	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々のショートミーティングで気になることを話し合い、毎月1回のユニットと会議でも取り上げ話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	研修会を開催し理解できるようにしている。			◎		
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員のストレスがないようシフト変更など調整している。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員研修や2ヶ月に1回開催される虐待防止委員会でも取り上げ、拘束が行なわれていないか拘束に該当するような事例がないか点検している					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	月に1回のユニット会議や2ヶ月に1回開催される虐待防止委員会でも話し合われている。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望はなく、職員側の都合によることが多いのではないかと捉え、数年前からセンサー以外は全廃している。 またセンサーを嫌う方はナースコールを用意し、ご本人から必要時に呼んでもらっている。					

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	出来ない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	出来ない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	出来ない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し対応している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に訓練をおこなっていないが、実践力は身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	介護記録や申し送り等でヒヤリハットがあったことを伝え事故の際には事故報告書を作成し、職員間で再発防止に向けて情報交換している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	職員間で情報を共有し、取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	報告書を作成し、全職員に分かるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合は管理者・ホーム長まで報告し、速やかに対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答し、サービス改善の経過や結果を伝え了承をいただいている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	ホーム長がほぼ毎日いつでも各ユニットを回り、ご入居者一人一人と挨拶を交わし、普段から遠慮なくお話ができる環境作りを行なっている			◎	利用者には生活の中で要望を聞いている。家族には、日常的に気軽に要望を申し出てもらえるよう声をかけ、家族アンケートを実施することで言いにくいことが伝えられるよう工夫している。利用者や家族ともに苦情が聞かれれば苦情受付記録を作成し、職員間で回覧して共有することで運営に活かしている。管理者はショートミーティングや会議などで職員の意見を把握し、利用者本位のケアにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時や電話等でお話しする際にご家族様から直接ご意見やご要望をお聞きしている。また、毎年1回アンケートを配布し、ご家族様からのご意見を頂き、結果を職員に周知改善に努めている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項にも記載し、ホームで改善できないときは公的窓口もあることを説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常に現場に入り、職員の意見や要望・提案など個々に受けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日々のショートミーティングや会議で職員の意見を取り入れ利用者本位の介護ができるよう行なっている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	2年に1回の取り組みはできているが、毎年は出来ていない。	/	/	/	取り組み内容や成果について運営推進会議で報告している。今後も理解しやすい伝え方を工夫し、取り組みに関するモニターとして運営に参加してもらえることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	報告し、会議等で改善状況を確認している。職員には報告のみで終わっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果については運営推進会議等で報告し、成果についても報告している。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	取り組みの経過を報告し、成果についても確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。また、西消防署の協力を得て火災訓練や防災研修を年2回6月と11月に行なっている。	/	/	/	年に2回避難訓練を実施し、緊急連絡網の訓練も行っている。職員は地域の防災訓練に参加し協力・支援体制の構築に努力している。今後は火災訓練だけでなく様々な災害を想定した訓練の実施や避難経路の確認、備蓄品の点検などを含めた災害への備えに期待したい。利用者が安全に避難するためには繰り返しの訓練と家族や地域などの協力が不可欠で、協力・支援体制の構築を継続してもらいたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	火災訓練はおこなっているが、防災訓練はできていない。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消化設備等の点検は行なっているが、その他についてはできていない。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	町内会の取り組みとして本年から防災訓練が行なわれ、これまで2回の防災訓練に参加した。人数制限もあって入居者の参加ができなかったが、入居者の参加ができれば地域の方の意識も変わり、ご協力いただける環境ができるのではと考える。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域密着型事業所連絡会議や町内会の活動に参加して積極的に情報を得ようとしている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	日頃から町内の方々にホームの行事案内やイベントの案内などを戸別配布し、グループホーム(認知症対応型共同生活介護)についてご理解いただくように努めている。	/	/	/	開設当初から地域との交流に積極的に取り組み、交流の輪は徐々に広がっていると実感している。地域住民からの相談には気軽に応じる姿勢があり、今後地域に情報を発信することで事業所の持つ力を発揮できることに期待したい。近隣の事業所や小学生の職場体験、職業訓練生の受け入れにも積極的で、地域活動を各機関と協働しながら行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	デイサービスを利用されているご家族様や地域の方からお部屋の空き情報を聞かれたり、ご家族が抱える介護の悩みなど相談にのることがある。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	音楽や踊り、マジックショーなど年間を通してボランティアの受け入れをおこなっており、活躍の場となっている。入居者の方々も大変楽しみにされている。また、本年度からは近くの方がお一人で毎月定期的にボランティアに訪れ、入居者との交流ができています。8月にはユニクロの訪問販売がホームであり、ご近所の方が買い物にいられたりしている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	ハローワークによる介護実習の受け入れなどおこない、教育実習終了後に入職された方もいる。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	他の事業所との交流や地域主催の福祉祭り等に参加してホームの活動を紹介している。	/	/	◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成 29 年9月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	38701022401
事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	葉っぱ
記入者(管理者)	
氏名	西田 涼子
自己評価作成日	29 年 8 月 30 日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○ 身体拘束をしないケアの実践 2階ユニットのドアを施錠していることについて……平成27年12月1日から昼間の施錠を解除し、以後全くなし、急にユニットから出て後を追いかけるケースもあったが、そのことによる問題発生は現在のところ特にない。 ○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう日常的に交流ができていない。……地域の福祉祭りや運動会、ホーム主宰の夕涼み会や町内会主催の盆踊り大会などで入居者と地域の方のふれあいができ、最近では地域の方も気軽にホームを訪れ職員と談笑することもあるが、入居者と直接ふれあうケースはまだあまりすすんでいない。今年の春から毎月1回地域の方がボランティアでユニットに入り、紙芝居や体操をおこなっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 グループホームは3ユニットあり、デイサービスが併設されている。男性の職員も多く、施設全体に活気がある事業所内では利用者が思い思いに過ごしており、穏やかな雰囲気も感じられる。閑静な住宅街の中にあり、近所にある公園の散歩では四季折々の花を眺めることが楽しみの1つとなっている。地域との関わりを大切に、地域行事や事業所行事を通じて積極的な交流を楽しんでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居前の暮らしぶりや入居時のご事情、状況を参考にお一人ひとりの普段の生活からできることや暮らし方を把握している	◎	/	○	生活の中で利用者一人ひとりの意向を丁寧に把握し、意向に沿えるように支援に努めている。暮らし方の希望について介護記録などに記入し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	常に入居者の視点に立って考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	分からないことはご家族と相談している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護記録等に記入し、申し送り等で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	普段の生活から見落とさないよう気をつけている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	関わりのある方から情報を得ている。	/	/	○	利用者や家族、またこれまで利用してきたサービス事業者から聞き取り、生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を得て、入居前の生活リズムを崩さないように努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の生活からできること、できないことを把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	生活を記録して把握できている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	ショートミーティングにて不安要因の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護記録への記入を行い、特変あれば申し送り等で情報を共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎日のショートミーティングで課題の把握に努め本人の視点に立って検討している。	/	/	○	利用者ごとにサービス担当者会議を開催し、家族の参加を得たり、電話で意見を伺いながら本人視点での検討に努めている。毎月開催するカンファレンスで職員間で情報を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	サービス担当者会議やカンファレンスにて現状の把握とその方にとってのよりよい暮らしについて検討し、ケアプランの見直しなどを行なっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議の報告書にて検討した内容の課題を明記している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	検討した内容を支援計画書に反映し、実施している。	/	/	/	利用者や家族と話し合った内容を毎月のカンファレンスで話し合い、意見を出し合って介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々の生活やご家族からの希望を話し合い、支援計画書に反映している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	「その人らしい生き方」に添った支援計画書を作成し、実施している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族や友人、知人との面会、地域の行事への参加などが盛り込まれている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	計画書と介護記録が一致するようにしている。また、計画書が変更されたり、更新されたときは全員が必ず目を通してしている。	/	/	◎	介護計画に沿った記録を取っており、内容を理解している。個別記録は番号で整理され、日々の支援内容を詳細に記録しているが、利用者の発言内容や具体的な様子、また職員の気づきやアイデアなどが盛り込まれることに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画書に基づいて担当者会議にて報告し、評価表の作成と実施記録表に達成度の記入を行なっている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	計画書に基づいて日々の様子を介護記録に記入している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	細かく記録し、改善につなげている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	短期は1ヶ月、長期は3か月とし、定期的に見直しを行っている。必要時はその都度変更を行なっている。	/	/	◎	3か月毎に介護計画の見直しが確実に行われ、毎月のミーティングで現状を確認したり、毎週モニタリングを実施することで変化を見逃さないように工夫されている。状態の変化に応じて随時見直しを行い、家族と状況を確認しながら新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に1回担当者会議を開き確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入退院等生活環境に変化があった場合はその都度生活支援計画書の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	日々ショートミーティングを開催し、情報の共有と課題解決に努めている。また、状態観察をおこない、サービス担当者会議を開催している。	/	/	○	ユニットごとのミーティングを毎月開催し、3ユニット合同のユニット責任者会議を月2回開催することで、全体の状況を確認し、話し合うことができている。参加できない職員も含め議事録を確認して内容を正確に伝え、押印でチェックしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個々が意見して会議を有意義なものにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議のために人員を増や会議に参加できるようにしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容は記録に残し、いつでも見れるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	議事録や申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。	/	/	◎	会議録や申し送りノートを確認することで、職員間で情報を共有し、押印でチェックしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	即時に反映すべき情報等は申し送りノートの活用や口頭で伝え連絡・相談を行なっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日の体調や天候、職員数を考慮し、散歩や買い物等でかける機会を作っている。	/	/	/	利用者の「その人らしい」暮らしを支援できるよう心がけており、その日したいことを利用者を選択してもらったり、こだわりが強い方や几帳面な性格の方、それぞれの利用者の個性を尊重し、できるだけ思いに沿うように支援に努めている。利用者が発言しやすいように、明るい雰囲気づくりや細やかな声かけに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着用される衣類を選んでいただいたり、食後にどのように過ごされたいかお聞きしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	会話のやり取りが「はい、いいえ」だけにならないよう「5W1H」を活用してご要望をお聞きし、実現に向けて努力している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	入浴は長風呂になりすぎないように注意しながらもできる限りゆっくり入れるよう楽しんでいただいている。就寝の時間については個別に対応している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人ひとりに合った声かけや笑いを誘う会話にこころがけ、笑顔が出るようにしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情からでも本人の思いが受け取れるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	プライバシーに配慮した言葉かけを心がけている。	◎	◎	◎	人生の先輩であるという尊敬の念をもった対応を心がけ、会話する際には目線を合わせ、利用者の話に耳を傾ける様子が伺えた。丁寧な声かけや誘導の際には説明を行い、羞恥心に配慮が必要な場面にも適切な対応ができています。居室への出入りはノックや挨拶を行い、プライベートな場所である旨を理解している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレの声かけなど大きな声で周りに分かるような声かけはしないようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	言葉がけは特に気をつけている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ご本人に配慮しながら出入りに気をつけている。また、洗濯した衣類を持ってきたときは何を持ってきたか、説明している。片付けるときは何をかつづけるか説明している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	プライバシーを守り、個人情報の管理に気をつけている。外部からの問い合わせにはホーム長の許可が必要となっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	食器拭きやタオルたたみなどお手伝いをしてもらったときは感謝の気持ちを伝え、良好な関係作りに努めている。	/	/	/	職員は利用者の様子をよく観察し、利用者同士の相性やその日の様子を見ながら、職員が間に入ることで、穏やかに過ごすことができている。利用者同士もお互いに声をかけたり、誘いあったりしながら生活している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	助け合えるよう配慮できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	必要があれば間に入り、入居者どうしが良い関係になれるよう雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要があれば席を変える等行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントで確認している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントやご本人との会話で確認している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会等あればゆっくり過ごしていただいている。馴染みの場所など出かける際はご家族の協力で行なっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室でゆっくり過ごしていただいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ドライブを計画したり、家族様と連絡をとり合い外出できるように支援している。また、職員とともに個人の買い物やホームの必要物品買出しと一緒に出かけようとしている。	○	○	◎	「お寿司を食べたい」といった利用者の希望を取り入れた外出計画をユニット毎に立案し、実施している。事前に外出先のトイレなどの設備を調べ、快適な外出支援ができるように配慮している。重度な利用者も体調などに配慮しながら、戸外で過ごす機会を取り入れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の行事などに積極的に参加し、外出の機会を多くしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調等考慮しながら近くの公園などにいくなど取り組んでいる。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	毎月1回ユニットの行事として外出を計画、また年1回はホーム全体でご家族と一緒に日帰りバス旅行などを行なっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者一人ひとりの身体状況や心理症状、こだわり等について着目しながらケアを行なっている。	/	/	/	リビングでのテレビ体操や長い廊下を活用した歩行訓練のほか、エアロバイクを漕いだり、選択や掃除といった家事を通じ、自分でできることは継続してもらうように支援し、環境を整えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの健康状態を観察し、早めの対応で残存機能の維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご自分でできることはご自分で行なうよう自立支援に心がけている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人やご家族からお話を聞き、楽しみごとや役割を把握し援助できるよう努めている。	/	/	/	体操の号令を男性利用者が役割として担い、それを楽しみにしている様子が伺えた。不穏な状態が続く利用者も、これまでの趣味を支援に活かし、手先を使う折り紙や字を書くことによって平静を取り戻したケースもあり、楽しみごとや役割を通じていきいきとした暮らしへと導いている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ご入居者の体調や障害に合わせて農作業や洗濯物を干したり、たたんだり、食器拭きや折り紙、字の練習をしてもらっている。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の催しに参加できるようご案内している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の希望も聞きながらその人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	/	/	/	季節に応じた身支度ができており、近隣の訪問美容を利用したり、馴染みの理容室・美容室へ職員と一緒にいく利用者もいる。代表者のアイデアで衣料品の移動販売を実施し、好みの衣類を購入したりおしゃれ心が満たせる支援に努めている。重度な状態にある利用者には、家族の協力を得ながら本人らしさが保てるよう配慮している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型や服装など本人の好きなようにしてもらい、必要時はヘアカットや買い物と一緒にしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に選んだり、助言したりしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節を感じてもらえるよう入居者と一緒に服装選びを行い気分の高揚に努めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人の自尊心を尊重しながら介助を行なっている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望がある場合は、ご家族様の協力をいただきながら行なっている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを大切に、家族様の協力のもと工夫・支援を行なえるよう努めている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	入居者の皆さんは食べることが大好きである。食事の話をするとうれしくなる。台所とリビングが繋がって食事の準備がはじまると皆さん集まり、今か今かと待っている。食事は笑いを誘い、家族を感じる機会でもある。	/	/	/	利用者の好みやリクエストを取り入れながら各ユニットで月初に献立を考え、ネットスーパーでの注文・配達を利用している。下準備や後片付けなどできることはしてもらい、利用者同士でメニューの話や調理方法について盛り上がる等、会話も弾んでいる。食事の際には、自分の箸と湯呑みを使用し、旬の食材や季節感のあるメニューを職員と一緒に楽しんでいる。利用者の状態によって、トロミや刻み食の方もいるが、できるだけ一般食に近い形で食べてもらえるように話し合い、工夫している。重度の利用者も共に調理の香りを楽しみながら過ごし、食事介助では細かい説明を行い、口の動きをしっかりと確認して、ゆっくりと待つ姿勢が見られた。必要に応じて栄養状態に応じた食事支援の方法を主治医に相談し、アドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	かつては主婦であり、台所に立った経験があるお年寄りにとっては特別な働きかけをしなくても参加しやすい。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材の買出しはないが、メニューを見て食べる楽しみができ、他のご入居者と一緒に後かたづけをすることで楽しい会話ができるなど自然と役割や自信が生れて笑顔も多くなる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好みや体質、嚥下状態など把握にも努めている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材を取り入れながら見て楽しめるよう彩り鮮やかに工夫している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼力や嚥下状態も観察しながら、できるだけ形や色合いを残すようにしてお年寄りの口にあった季節の食材や料理に気をつけている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入居時はできるだけご自宅で使い慣れた食器を持ってきていただき、その後はご本人が希望される物をご購入し使っていただいている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も一緒に食事をとり、さりげなく食べる様子を観察し、必要時は援助している。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	風症状など感染防止以外ではできるだけリビングで皆と一緒に食事を摂っていただいている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ご家族様や主治医の協力をいただきながら栄養バランス、や水分摂取ができるよう努めている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事形態や本人が好んで摂ることができるものを用意し、ストローやスプーン、水のみ等必要に応じて工夫を試みている。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	一人ひとりの好みなども留意し、より良いものをメニューに取り入れている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	衛生管理を日常的におこない、食材等の保存方法についても注意するよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアが健康管理の上でも大切であることを理解し日々行なっている。	/	/	/	毎食後、歯磨きを実施し、できることはしてもらいながら、できないことを職員が介助している。歯科医師に定期的にチェックしてもらったり、毎週訪問する歯科衛生士に指導を受けることで口腔内の健康管理を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医師による歯の健康管理や定期的な訪問歯科衛生指導を取り入れ、早期発見、早期治療に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師や歯科衛生士による指導を受け、おこなっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	正しい手入れの仕方について職員間でも必ず情報共有している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	ご自分でできるところはご自分でしていただきながら清潔を保てるよう援助している	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常がある場合は、必ず歯科医師に相談し、対応できるよう努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	高齢者にとって排泄はもっとも高い関心事であり、体調管理もさることながら、オムツやパットの使用を安易におこなわないようにしている。必要時はご本人やご家族とも相談している。	/	/	/	排泄管理票を用いて確認し、トイレでの自然排泄を基本としている。利用者の機能や排泄状態に合わせた排泄用品の選定を行い、安易な使用は控えている。また状態について家族や職員で話し合いを持っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	個々の病状や体調によっても異なるが日々の訴えから腹部膨満感や食欲不振、腹痛、嘔吐など諸症状がみられることを理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介護記録や日々の排泄管理表を用いて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	そのときの状態に応じて対応している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	改善に向けた話し合いをスタッフ同士で行い、取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄管理表等を用い、排泄パターンの把握と異常を早めに見つけて対応している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	不愉快な思いをさせないようにいろいろ選択ができるよう支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の排尿量等把握し、その都度使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	特に問題がなければ乳製品等の摂取をすすめ、対応している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	一応予定はしているが、体調やそのときどきの入居者の気分で変更することもしている。	◎	/	◎	概ねの予定時間はあるが、ユニット内の一般浴槽で、毎回湯を入れ替えて気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。併設のデイサービスの機械浴槽を利用することも可能で、安全に利用することができる。その日の利用者の希望にしっかり耳を傾け、希望にできるだけ浴えるよう、コミュニケーションを大切にしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	浴室は一人浴槽であるため、シャワー浴だったり、浴槽に入ったり、入居者の希望に合わせて一人一人ゆっくりと入れるように配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声をかけながらご自分でできることはご自分でしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	日にちを変更したり、ご本人の訴えに傾聴し、その都度対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	事前にバイタル測定をおこない、本人からの体調も伺い入浴の良し悪しを決めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録などから個々の睡眠パターンを把握し、職員間で情報を共有している。	/	/	/	夜間に徘徊したり眠れない利用者については、日中の過ごし方を振り返り、支援方法を話し合っで見直している。それでも眠れない利用者には、リビングで過ごしたり、テレビを見たりして、自由に過ごしてもらっている。服薬に関しては主治医に相談し、適切に支援できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れないときはお話を聞いたり、お茶を一緒に飲んだりして対応するが、不眠が続く場合は生活リズムの見直しを図り昼夜逆転にならないようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護記録から不眠状況を把握し、様子をみながら日中の過ごし方などスタッフ間で話し合い、対応している。また、医師とも相談し対応している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々に居室があり、その都度声をかけ、お部屋でゆっくり過ごしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話の取り次ぎややりとりができるように援助している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	スタッフが声をかけ、手助けしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	いつでもできるように対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やはがきが届いたときには本人に直接渡している。理解が難しい場合は面会時や郵送でご家族様に届けている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に確認をとり、協力してくださるよう努めている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	スタッフ同士で理解し、対応している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	お出かけ買い物に行く機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	本人に伝え、理解を得るようにしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	相談をまず、家族にし、使えるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	電話連絡をし、話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	きちんと話し合い同意を得て行なっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ニーズをきちんと把握し、その都度対応している。	◎	/	◎	親戚が大勢集まる100歳の御祝い会に、職員も付き添って参加する等、利用者や家族からの多様なニーズに柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	開放感があるように周囲の工夫をしている。	○	○	○	併設のデイサービスと共用の広々とした玄関は開放され、来客時には事務所職員がすぐに対応している。地域の役員が気軽に来訪する様子が伺えた。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	親しみのある空間作りに努めている。	◎	◎	◎	季節を感じられる花を飾り、利用者と一緒に作成した手芸品や行事に参加した際の写真を壁に貼ったりと、事業所の生活の様子を共有でき、楽しい雰囲気が演出されている。リビングから見える田畑の景色が心地よく、季節を身近に感じられるように配慮している。職員が毎日分担して掃除を行い、清潔感が保たれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	スタッフが気をつけ行なっている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	生活空間が分かるように工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	スタッフが入居者の間に入り工夫している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	戸を閉めるなどして見えないように工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご本人が使いやすい物を持ってきていただき、対応している。	◎	/	/	使い慣れたタンスやいす等を持ち込んでいる利用者も多い。希望があれば畳を敷く対応もしている。各居室にミニキッチンがあり、流し台は口腔ケアなどの洗面で使用している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すり等を使用したり、できるだけ自立した生活ができるよう努めている。	/	/	◎	利用者の状態に合わせて、気になる物には視界に入りにくいよう、目隠しの貼り紙を貼って工夫している。部屋を間違えないよう名前を貼っている方、目印になるような物を飾っている方など、個々の状態に応じた対応を行っている。廊下の角が死角になるため、壁にカーブミラーを取り付けている箇所もあり、利用者が安全に自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	ユニット長と相談して最小にするよう工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	今まで使用していた家具等をそのまま使用して頂いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	その都度、スタッフ間で話し合い理解に努めている	◎	◎	◎	玄関の施錠はなく、ユニット出入り口にチャイムを取付け、開閉時にチャイムが鳴るよう工夫している。虐待予防について、事業所内の拘束廃止委員会で話し合い、しっかり検討している様子が議事録で確認できた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族にその都度説明し、対応している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入口にセンサーを設置し、その都度鳴れば対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	診療情報や個人情報をもとめているファイルから情報を収集することができる。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録にその都度記録を残し、早期発見、早期対応に努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	かかりつけ医や看護師に相談・報告し、適切に対応できるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	状況に応じて希望する医療機関で受診できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族と相談し、納得が得られるよう対応している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前後の報告は勿論、必要時は医師、本人、家族を交えてカンファレンスを開いている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院先に看護、介護サマリー等情報提供を行なっている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中の面会をはじめ、入院先で行なわれるカンファレンスにも参加して情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から連携をとって対応している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	ホーム長、看護師に相談し、医師との連絡・相談ができています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談・連絡体制ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	介護記録や申し送り等で常に時系列的变化をスタッフ間で共有し、医師の指示を仰ぐなど日頃から状態変化に対応できる体制となっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の内容等記載した処方箋の閲覧がいつでもできるようにし、必要時は申し送り等で注意喚起をしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時は必ず、職員による2重チェックで飲み忘れ、誤薬防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の変化を確認しながら対応している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬効果や状態観察を常に行いその都度医師に報告し、指示を仰いでいる。家族には病状変化による薬の変更など報告し、了承を得ている。				

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態変化に合わせて医師、家族を交えカンファレンスを開きご家族のご意向を確認しているが、ご本人の意思確認まではできていない。	/	/	/	看取りには積極的に取り組み、家族や医療機関等関係者で方針を共有し、話し合いの内容は丁寧に記録をとっている。最期まで事業所全体で看取る体制が構築されており、お別れのときは職員・家族だけではなく、他の利用者も一緒に見送っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	医師、家族を交えカンファレンスを開き、ご家族のご意向を確認し、職員にも共有している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	開設以来看取り介護をおこなっていることから、終末期の対応については平常と変わらぬ対応に努め、レベル低下に合わせてユニット長はじめ看護師、管理者、ホーム長などオンコール体制で医師と連携しスタッフを支えている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)を交わし理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	カンファレンスを開きその都度、医師による説明が行なわれご家族様の思いや意思の確認を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族の心配ごとや思いを傾聴し、相談にのっている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職員研修を開催し、学ぶ機会を作っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策など職員研修をおこない、マニュアルの作成などしているが訓練まではできていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	かかりつけ医からの情報や運営推進会議等で市の担当者による情報を得ている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報を共有してきている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	入居者はじめ職員もインフルエンザの予防注射を行なっている。ユニット出入りに手指消毒液とマスクを置き、感染予防の掲示を行なっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話連絡の際にご家族の思いや心配事など傾聴し、相談にのっている。				事業所から家族へのお願いとして、積極的に面会を依頼しており、家族はよく足を運んでくれていると感謝しており、来訪時には声かけし、関係性を良好なものにしている。また、面会時間の制限を設けず、気軽に来訪してもらえるよう配慮している。毎月利用者の暮らしぶりを書面で伝えるほか、家族アンケートを実施している。職員の異動や入退職を含めた運営上の事柄について、家族に理解できるよう伝え方の工夫を行って欲しい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会に来やすいように電話を入れ、来られた際にはお部屋で一緒におやつを食べて頂いている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	電話やお手紙でお知らせして各種行事に参加していただいている。	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お手紙やユニットニュースなどを発行し、ホームでの暮らしぶりをお伝えしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	往診結果や体調の変化、受診前後の確認と報告、ご本人からの心配事など報告し、ご家族様からの質問やご要望などにも丁寧に答えている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ホーム入居してから落ち着いてきたことや話し相手が増えて、最近ではお手伝いもして下さるなどホームでの暮らしぶりをお伝えしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお手紙やユニットニュース、お知らせ文で行事のご案内など行なっている。職員の移動、退職については責任者以外は特におこなっていない。		×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会の開催はできていないが、敬老会やクリスマス会年に1回の日帰り旅行などにご家族様の参加いただき交流が図られている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ご家族と相談しながら安全に暮らせるように努めている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来所時や電話でお話をさせていただき、ご家族の心配ごとや気がかりなことなどお聞きし、丁寧に答えている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時には資料にそって丁寧に説明し、ご理解をいただいている				た
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	治療が優先されるケースではご家族様からの退去希望となり、それ以外では事前になんどもご家族とお話をさせていただき、退去先の確保が確認された段階で契約終了となっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	ご家族様にご連絡、報告の上ご了承をいただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	町内の皆さんとは普段から気軽にご挨拶ができ、地域の1員として各種町内会行事に入居者はじめ職員も参加している。運営推進会議にも出席をお願いしている。	/	◎	/	事業所駐車場で開催している夕涼み会等には100名を超える大勢の地域住民が参加しており、事業所が地域で徐々に認知されてきたと実感している。今後は、公民館行事への参加についても検討しており、利用者がさらに積極的に地域へ出かけて行けるよう支援していく予定である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	町内の皆さんとは普段から気軽にご挨拶ができ、地域の1員として各種町内会行事に入居者はじめ職員も参加している。また、ホームが行なう夕涼み会には地域の子供達や若い方々、高齢の方々も参加して下さる。運営推進会議にも出席をお願いしている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の役員の方々の理解がすすみ、大変協力的で何かと声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	○	ホームの行事案内を地域にお配りしていることから何かの時に覗きにきてくれることがある。最近ではホームでユニクロの訪問販売が、ご夫婦で買い物に来られていた。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	最近では町内会の方やホームのすぐ傍の住民の方が気軽に立ち寄っていただけようになった。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎月1回近くの方がボランティアに来られ、紙芝居や体操などでご入居者と交流されている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	運動会や盆踊りなど町内会の行事に参加している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の福祉祭りへの参加や防災訓練、町内一斉清掃に参加し、関係を深める取り組みを行なっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	2ヶ月に1回開催し、町内会長や民生委員、包括支援センター、松山市、他の事業所(グループホーム)の参加を得ている。	◎	/	○	地域の方の参加は積極的で、近隣のグループホームからも参加がある。家族の参加が少なく、継続的に参加してもらえない点が、検討課題であると気づきを持っており、議題の工夫など参加者にとって有意義な会議にしたいと考えている。サービスの実際や評価への取組み状況を説明し、地域の情報交換やアドバイスなどの意見をもらい運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	ホーム長や管理者、各ユニット長から詳しく話されている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	情報交換をおこない、出席者からアドバイスなどいただいている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	取組んではいるが、ご家族様の出席がなかなか進まない。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	実施出来ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホーム長と職員は理念の共有をしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念を各ユニット毎に張り出し閲覧できるようにしている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修は希望者をつくり、参加してもらっている 内部研修は昨年までは時間外で行なっていたが、参加数が少ないため今年から昼間の時間帯にデイサービスの職員や利用者、ホームの入居者と職員が合同で研修	/	/	/	代表者は職員の悩みや相談に気軽に応じている。また、内外部研修への参加でスキルアップにつなげて欲しいと、就業環境の整備に配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員研修を定期的に行なっている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	行なっている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他の事業所の運営推進会議や地域密着型事業所交流会などにも参加して情報交換を行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員から仕事上の悩みや健康面についての相談を受け、助言をしたり、要望を聞いている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に虐待防止委員会をひらき、該当事例がないか職員間で共有している。また研修を通して理解に努めている。	/	/	/	虐待防止に関する研修を年2回実施し、拘束廃止委員会での話し合いの様子も議事録で確認できる。不適切なケアが見過ごされることのないよう該当事例がないか振り返りの機会も持ち、対応方法や手順について理解がある。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のショートミーティングで気になることを話し合い、毎月1回のユニットと会議でも取り上げ話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修会を開催し理解できるようにしている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレスがないようシフト変更など調整している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員研修や2ヶ月に1回開催される虐待防止委員会でも取り上げ、拘束が行なわれていないか拘束に該当するような事例がないか点検している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	月に1回のユニット会議や2ヶ月に1回開催される虐待防止委員会でも話し合われている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望はなく、職員側の都合によることが多いのではないかと捉え、数年前からセンサー以外は全廃している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	出来ない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	出来ない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	出来ない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し対応している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的に訓練は出来ないが、実践力は身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	介護記録や申し送り等でヒヤリハットがあったことを伝え事故の際には事故報告書を作成し、職員間で再発防止に向けて情報交換している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員間で情報を共有し、取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	報告書を作成し、全職員に分かるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合は管理者・ホーム長まで報告し、速やかに対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答し、サービス改善の経過や結果を伝え了承をいただいている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	ホーム長がほぼ毎日いつでも各ユニットを回り、ご入居者一人一人と挨拶を交わし、普段から遠慮なくお話ができる環境作りを行なっている			◎	利用者には生活の中で要望を聞いている。家族には、日常的に気軽に要望を申し出てもらえるよう声をかけ、家族アンケートを実施することで言いにくいことが伝えられるよう工夫している。利用者や家族ともに苦情が聞かれれば苦情受付記録を作成し、職員間で回覧して共有することで運営に活かしている。管理者はショートミーティングや会議などで職員の意見を把握し、利用者本位のケアにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会時や電話等でお話しする際にご家族様から直接ご意見やご要望をお聞きしている。また、毎年1回アンケートを配布し、ご家族様からのご意見を頂き、結果を職員に周知改善に努めている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項にも記載し、ホームで改善できないときは公的窓口もあることを説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	常に現場に入り、職員の意見や要望・提案など個々に受けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日々のショートミーティングや会議で職員の意見を取り入れ利用者本位の介護ができるよう行なっている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	出来ない。				<p>取り組み内容や成果について運営推進会議で報告している。今後も理解しやすい伝え方を工夫し、取り組みに関するモニターとして運営に参加してもらえることを期待したい。</p>
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	×	出来ない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	出来ない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	評価結果については運営推進会議等で報告しているがその後ができていない。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。また、西消防署の協力を得て火災訓練や防災研修を年2回6月と11月に行なっている。				<p>年に2回避難訓練を実施し、緊急連絡網の訓練も行っている。職員は地域の防災訓練に参加し協力・支援体制の構築に努力している。今後は火災訓練だけでなく様々な災害を想定した訓練の実施や避難経路の確認、備蓄品の点検などを含めた災害への備えに期待したい。利用者が安全に避難するためには繰り返しの訓練と家族や地域などの協力が不可欠で、協力・支援体制の構築を継続してもらいたい。</p>
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	火災訓練はおこなっているが、防災訓練はできていない。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消化設備等の点検は行なっているが、その他についてはできていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	町内会の取り組みとして本年から防災訓練が行なわれ、これまで2回の防災訓練に参加した。人数制限もあって入居者の参加ができなかったが、入居者の参加ができれば地域の方の意識も変わり、ご協力いただける環境ができるのではと考える。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域密着型事業所連絡会議や町内会の活動に参加して積極的に情報を得るようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ない				<p>開設当初から地域との交流に積極的に取り組み、交流の輪は徐々に広がっていると実感している。地域住民からの相談には気軽に応じる姿勢があり、今後地域に情報を発信することで事業所の持つ力を発揮できることに期待したい。近隣の事業所や小学生の職場体験、職業訓練生の受け入れにも積極的で、地域活動を各機関と協働しながら行っている。</p>
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	出来ない。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	出来ない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他の事業所との交流や地域主催の福祉祭り等に参加してホームの活動を紹介している。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成 29 年9月25日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	38701022401
事業所名	グループホーム すみれの家
(ユニット名)	根っこ
記入者(管理者)	
氏名	西田 涼子
自己評価作成日	29 年 8 月 30 日

<p>【事業所理念】 私たちは、利用者の方々の「その人らしい生活」を大切に、穏やかで安心感にあふれる充実した生活を送ることができるようサポートします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○ 身体拘束をしないケアの実践 2階ユニットのドアを施錠していることについて……平成27年12月1日から昼間の施錠を解除し、以後全くなし、急にユニットから出て後を追いかけるケースもあったが、そのことによる問題発生は現在のところ特にない。 ○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう日常的に交流ができていない。……地域の福祉祭りや運動会、ホーム主宰の夕涼み会や町内会主催の盆踊り大会などで入居者さんと地域の方のふれあいができ、最近では地域の方も気軽にホームを訪れ職員と談笑することもあるが、入居者と直接ふれあうケースはまだあまりすすんでいない。今年の春から毎月1回地域の方がボランティアでユニットに入り、紙芝居や体操をおこなっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 グループホームは3ユニットあり、デイサービスが併設されている。男性の職員も多く、施設全体に活気がある事業所内では利用者が思い思いに過ごしており、穏やかな雰囲気も感じられる。閑静な住宅街の中にあり、近所にある公園の散歩では四季折々の花を眺めることが楽しみの1つとなっている。地域との関わりを大切に、地域行事や事業所行事を通じて積極的な交流を楽しんでいる。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前の暮らしぶりや入居時のご事情、状況を参考にお一人ひとりの普段の生活からできることや暮らし方を把握している。	◎	/	○	生活の中で利用者一人ひとりの意向を丁寧に把握し、意向に沿えるように支援に努めている。暮らし方の希望について介護記録などに記入し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	常に入居者の視点に立って考えるようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時に生活歴などご家族に聞き、入所後は日々の暮らしの中で直接本人から聞くことがある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	介護記録には本人の言葉をそのまま記録するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	スタッフの先入観にとらわれないようご家族にも意見を求めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居のときに本人やご家族に生活歴や環境を聞きだすようにしている。	/	/	○	利用者や家族、またこれまで利用してきたサービス事業者から聞き取り、生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を得て、入居前の生活リズムを崩さないように努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の生活からできること、できないことを把握している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	不安の訴えや不穏になったときの状況を細かく記録に残すようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ショートミーティングにて不安要因の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録への記入を行い、特変あれば申し送り等で情報を共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎日のショートミーティングで課題の把握に努め本人の視点に立って検討している。	/	/	○	利用者ごとにサービス担当者会議を開催し、家族の参加を得たり、電話で意見を伺いながら本人視点での検討に努めている。毎月開催するカンファレンスで職員間で情報を共有している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	サービス担当者会議やカンファレンスにて現状の把握とその方にとってのよりよい暮らしについて検討し、支援計画の見直しなどを行なっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	サービス担当者会議の報告書にて検討した内容の課題を明記している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	検討した内容を支援計画書に反映し、実施している。	/	/	/	利用者や家族と話し合った内容を毎月のカンファレンスで話し合い、意見を出し合って介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族の面会時に新たな要望を聞き取り、支援計画書に反映している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	これまでの日々の過ごし方を継続できるような内容の支援計画書を作成している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族や友人、知人との面会、地域の行事への参加などが盛り込まれている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	計画書と介護記録が一致するようにしている。また、計画書が変更されたり、更新されたときは全員が必ず目を通してしている。	/	/	◎	介護計画に沿った記録を取っており、内容を理解している。個別記録は番号で整理され、日々の支援内容を詳細に記録しているが、利用者の発言内容や具体的な様子、また職員の気づきやアイデアなどが盛り込まれることに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	計画書に基づいて担当者会議にて報告し、評価表の作成と実施記録表に達成度の記入を行なっている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	計画書に基づいて日々の様子を介護記録に記入している。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	細かく記録し、改善につなげている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	短期は1ヶ月、長期は3ヶ月とし、定期的に見直しを行っている。必要時はその都度変更を行なっている。	/	/	◎	3か月毎に介護計画の見直しが確実に行われ、毎月のミーティングで現状を確認したり、毎週モニタリングを実施することで変化を見逃さないように工夫されている。状態の変化に応じて随時見直しを行い、家族と状況を確認しながら新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に1回担当者会議を開き確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入退院等生活環境に変化があった場合はその都度生活支援計画書の見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	日々ショートミーティングを開催し、情報の共有と課題解決に努めている。また、状態観察をおこない、サービス担当者会議を開催している。	/	/	○	ユニットごとのミーティングを毎月開催し、3ユニット合同のユニット責任者会議を月2回開催することで、全体の状況を確認し、話し合うことができている。参加できない職員も含め議事録を確認して内容を正確に伝え、押印でチェックしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個々が意見して会議を有意義なものにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	出勤しているスタッフでのミーティングとなっている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録や申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	議事録や申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。	/	/	◎	会議録や申し送りノートを確認することで、職員間で情報を共有し、押印でチェックしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	即時に反映すべき情報等は申し送りノートの活用や口頭で伝え連絡・相談を行なっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その日、その日で何が出来るか考え実行している。	/	/	/	利用者の「その人らしい」暮らしを支援できるよう心がけており、その日したいことを利用者を選択してもらったり、こだわりが強い方や几帳面な性格の方、それぞれの利用者の個性を尊重し、できるだけ思いに沿うように支援に努めている。利用者が発言しやすいように、明るい雰囲気づくりや細やかな声かけに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定ができることは、できるだけご本人に考えて頂いている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	納得できるように働きかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の習慣を大事にして支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気作りをしている。	○	スタッフが明るく元気に努め、雰囲気作りをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情からでも本人の思いが受け取れるようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人生の先輩であることを考え接することができる。	◎	◎	◎	人生の先輩であるという尊敬の念をもった対応を心がけ、会話する際には目線を合わせ、利用者の話に耳を傾ける様子が伺えた。丁寧な声かけや誘導の際には説明を行い、羞恥心に配慮が必要な場面にも適切な対応ができています。居室への出入りはノックや挨拶を行い、プライベートな場所である旨を理解している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレの声かけなど大きな声で周りに分かるような声かけはしないようにしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	言葉がけは特に気をつけている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際はノックや挨拶をし、ご本人に配慮しながら出入りに気をつけている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシーを守り、個人情報の管理に気をつけている。外部からの問い合わせにはホーム長の許可が必要となっている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	食器拭きやタオルたたみなどお手伝いをしてもらったときは感謝の気持ちを伝え、良好な関係作りに努めている。	/	/	/	職員は利用者の様子をよく観察し、利用者同士の相性やその日の様子を見ながら、職員が間に入ることで、穏やかに過ごすことができている。利用者同士もお互いに声をかけたり、誘いあったりしながら生活している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	助け合えるよう配慮できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり、孤立したりしないよう必要時は席替え等も行なっている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	早めにスタッフが間に入り、解消に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントで確認している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントやご本人との会話で確認している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会等あればゆっくり過ごしていただいている。馴染みの場所など出かける際はご家族の協力で行なっている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間を設定していないため、いつでも自由に面会に来られ、同じ建物にご家族がいる場合は職員に一言声をかけてくだされば居室訪問も自由に行くことができる。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ドライブを計画したり、家族様と連絡をとり合い外出できるように支援している。また、職員とともに個人の買い物やホームの必要物品買出しと一緒に出かけようとしている。	○	○	◎	「お寿司を食べたい」といった利用者の希望を取り入れた外出計画をユニット毎に立案し、実施している。事前に外出先のトイレなどの設備を調べ、快適な外出支援ができるように配慮している。重度な利用者も体調などに配慮しながら、戸外で過ごす機会を取り入れている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の行事などに積極的に参加し、外出の機会を多くしている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調等考慮しながら近くの公園などに行く取り組みをしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	毎月1回ユニットの行事として外出を計画、また年1回はホーム全体でご家族と一緒に日帰りバス旅行などを行なっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者一人ひとりの身体状況や心理症状、こだわり等について着目しながらケアを行なっている。	/	/	/	リビングでのテレビ体操や長い廊下を活用した歩行訓練のほか、エアロバイクを漕いだり、選択や掃除といった家事を通じ、自分でできることは継続してもらうように支援し、環境を整えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの健康状態を観察し、早めの対応で残存機能の維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご自分でできることはご自分で行なうよう自立支援に心がけている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人やご家族からお話を聞き、楽しみごとや役割を把握し援助できるよう努めている	/	/	/	体操の号令を男性利用者が役割として担い、それを楽しみにしている様子が伺えた。不穏な状態が続く利用者も、これまでの趣味を支援に活かし、手先を使う折り紙や字を書くことによって平静を取り戻したケースもあり、楽しみごとや役割を通じていきいきとした暮らしへと導いている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	ご入居者の体調や障害に合わせて農作業や洗濯物を干したり、たたんだり、食器拭きや折り紙、字の練習をしてもらっている。	◎	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の催しに参加できるようご案内している。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の希望も聞きながらその人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。				季節に応じた身支度ができており、近隣の訪問美容を利用したり、馴染みの理容室・美容室へ職員と一緒に行く利用者もいる。代表者のアイデアで衣料品の移動販売を実施し、好みの衣類を購入したりおしゃれ心が満たせる支援に努めている。重度な状態にある利用者には、家族の協力を得ながら本人らしさが保てるよう配慮している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型や服装など本人の好きなようにしてもらい、必要時はヘアカットや買い物と一緒にやっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	一緒に選んだり、助言したりしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節を感じてもらえるよう入居者と一緒に服装選びを行い気分の高揚に努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人の自尊心を尊重しながら介助を行なっている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望がある場合は、ご家族様の協力をいただきながら行なっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさを大切に、家族様の協力のもと工夫・支援を行なえるよう努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	入居者の皆さんは食べることが大好きである。食事の話をするとうれしくなる。台所とリビングが繋がりがり食事の準備がはじまると皆さん集まり、今か今かと待っている。食事は笑いを誘い、家族を感じる機会でもある。				利用者の好みやリクエストを取り入れながら各ユニットで月初に献立を考え、ネットスーパーでの注文・配達を利用している。下準備や後片付けなどできることはしてもらい、利用者同士でメニューの話や調理方法について盛り上がる等、会話も弾んでいる。食事の際には、自分の箸と湯呑みを使用し、旬の食材や季節感のあるメニューを職員と一緒に楽しんでいる。利用者の状態によって、トロミや刻み食の方もいるが、できるだけ一般食に近い形で食べてもらえるように話し合い、工夫している。重度の利用者も共に調理の香りを楽しみながら過ごし、食事介助では細かい説明を行い、口の動きをしっかりと確認して、ゆっくりと待つ姿勢が見られた。必要に応じて栄養状態に応じた食事支援の方法を主治医に相談し、アドバイスを受けている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	かつては主婦であり、台所に立った経験があるお年寄りにとっては特別な働きかけをしなくても参加しやすい。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材の買出しはないが、メニューを見て食べる楽しみができ、他の入居者と一緒に後かたづけをすることで楽しい会話ができるなど自然と役割や自信が生れて笑顔も多くなる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	好みや体質、嚥下状態など把握にも努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材を取り入れながら見て楽しめるよう彩り鮮やかに工夫している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	咀嚼力や嚥下状態も観察しながら、できるだけ形や色合いを残すようにしてお年寄りの口にあった季節の食材や料理に気をつけている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時はできるだけご自宅で使い慣れた食器を持ってきていただき、その後はご本人が希望される物を購入し使っていたい。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も一緒に食事をとり、さりげなく食べる様子を観察し、必要時は援助している。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	風症状など感染防止以外ではできるだけリビングで皆と一緒に食事を摂っていただいている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	ご家族様や主治医の協力をいただきながら栄養バランス、や水分摂取ができるよう努めている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事形態や本人が好んで摂ることができるものを用意し、ストローやスプーン、水のみ等必要に応じて工夫を試みている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	一人ひとりの好みなども留意し、より良いものをメニューに取り入れている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	衛生管理を日常的におこない、食材等の保存方法についても注意するよう努めている。						

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアが健康管理の上でも大切であることを理解し日々行なっている。	/	/	/	毎食後、歯磨きを実施し、できることはしてもらいながら、できないことを職員が介助している。歯科医師に定期的にチェックしてもらったり、毎週訪問する歯科衛生士に指導を受けることで口腔内の健康管理を行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	歯科医師による歯の健康管理や定期的な訪問歯科衛生指導を取り入れ、早期発見、早期治療に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科医師や歯科衛生士による指導を受け、おこなっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	正しい手入れの仕方について職員間でも必ず情報共有している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	ご自分でできるところはご自分でしていただきながら清潔を保てるよう援助している	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常がある場合は、必ず歯科医師に相談し、対応できるよう努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	高齢者にとって排泄はもっとも高い関心事であり、体調管理もさることながら、オムツやパットの使用を安易におこなわないようにしている。必要時はご本人やご家族とも相談している。	/	/	/	排泄管理票を用いて確認し、トイレでの自然排泄を基本としている。利用者の機能や排泄状態に合わせた排泄用品の選定を行い、安易な使用は控えている。また状態について家族や職員で話し合いを持っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	個々の病状や体調によっても異なるが日々の訴えから腹部膨満感や食欲不振、腹痛、嘔吐など諸症状がみられることを理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	介護記録や日々の排泄管理表を用いて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	そのときの状態に応じて対応している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	改善に向けた話し合いをスタッフ同士で行い、取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄管理表等を用い、排泄パターンの把握と異常を早めに見つけて対応している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	不愉快な思いをさせないようにいろいろ選択ができるよう支援している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の排尿量等把握し、その都度使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	特に問題がなければ乳製品等の摂取をすすめ、対応している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	一応予定はしているが、体調やそのときどきの入居者の気分で変更することもしている。	◎	/	◎	概ねの予定時間はあるが、ユニット内の一般浴槽で、毎回湯を入れ替えて気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。併設のデイサービスの機械浴槽を利用することも可能で、安全に利用することができる。その日の利用者の希望にしっかり耳を傾け、希望にできるだけ浴えるよう、コミュニケーションを大切にしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	浴室は一人浴槽であるため、シャワー浴だったり、浴槽に入ったり、入居者の希望に合わせて一人一人ゆっくりと入れるように配慮している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	声をかけながらご自分でできることはご自分でしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	日にちを変更したり、ご本人の訴えに傾聴し、その都度対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	事前にバイタル測定をおこない、本人からの体調も伺い入浴の良し悪しを決めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録などから個々の睡眠パターンを把握し、職員間で情報を共有している。	/	/	/	夜間に徘徊したり眠れない利用者については、日中の過ごし方を振り返り、支援方法を話し合っで見直している。それでも眠れない利用者には、リビングで過ごしたり、テレビを見たりして、自由に過ごしてもらっている。服薬に関しては主治医に相談し、適切に支援できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	眠れないときはお話を聞いたり、お茶を一緒に飲んだりして対応するが、不眠が続く場合は生活リズムの見直しを図り昼夜逆転にならないようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護記録から不眠状況を把握し、様子をみながら日中の過ごし方などスタッフ間で話し合い、対応している。また、医師とも相談し対応している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々に居室があり、その都度声をかけ、お部屋でゆっくり過ごしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話の取り次ぎややりとりができるように援助している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	スタッフが声をかけ、手助けしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでもできるように対応している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やはがきが届いたときには本人に直接渡している。理解が難しい場合は面会時や郵送でご家族様に届けている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に確認をとり、協力してくださるよう努めている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	スタッフ同士で理解し、対応している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	お出かけ買い物に行く機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	本人に伝え、理解を得るようにしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	相談をまず、家族にし、使えるように支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	電話連絡をし、話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	きちんと話し合い同意を得て行なっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	ニーズをきちんと把握し、その都度対応している。	◎	/	◎	親戚が大勢集まる100歳の御祝い会に、職員も付き添って参加する等、利用者や家族からの多様なニーズに柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	開放感があるように周囲の工夫をしている。	○	○	○	併設のデイサービスと共用の広々とした玄関は開放され、来客時には事務所職員がすぐに対応している。地域の役員が気軽に来訪する様子が伺えた。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	親しみのある空間作りに努めている。	◎	◎	◎	季節を感じられる花を飾り、利用者と一緒に作成した手芸品や行事に参加した際の写真を壁に貼ったりと、事業所の生活の様子を共有でき、楽しい雰囲気が演出されている。リビングから見える田畑の景色が心地よく、季節を身近に感じられるように配慮している。職員が毎日分担して掃除を行い、清潔感が保たれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	スタッフが気をつけ行なっている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	生活空間が分かるように工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	スタッフが入居者の間に入り工夫している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	戸を閉めるなどして見えないように工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご本人が使いやすい物を持ってきていただき、対応している。	◎	/	/	使い慣れたタンスやいす等を持ち込んでいる利用者も多い。希望があれば畳を敷く対応もしている。各居室にミニキッチンがあり、流し台は口腔ケアなどの洗面で使用している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手すり等を使用したり、できるだけ自立した生活ができるよう努めている。	/	/	/	利用者の状態に合わせて、気になる物には視界に入りにくいよう、目隠しの貼り紙を貼って工夫している。部屋を間違えないよう名前を貼っている方、目印になるような物を飾っている方など、個々の状態に応じた対応を行っている。廊下の角が死角になるため、壁にカーブミラーを取り付けている箇所もあり、利用者が安全に自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	ユニット長と相談して最小にするよう工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	今まで使用していた家具等をそのまま使用して頂いている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	その都度、スタッフ間で話し合い理解に努めている	◎	◎	◎	玄関の施錠はなく、ユニット出入り口にチャイムを取付け、開閉時にチャイムが鳴るよう工夫している。虐待予防について、事業所内の拘束廃止委員会で話し合い、しっかり検討している様子が議事録で確認できた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族にその都度説明し、対応している。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	入口にセンサーを設置し、その都度鳴れば対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	診療情報や個人情報をもとめているファイルから情報を収集することができる。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録にその都度記録を残し、早期発見、早期対応に努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけ医や看護師に相談・報告し、適切に対応できるようにしている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	状況に応じて希望する医療機関で受診できるようにしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族と相談し、納得が得られるよう対応している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診前後の報告は勿論、必要時は医師、本人、家族を交えてカンファレンスを開いている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院先に看護、介護サマリー等情報提供を行なっている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中の面会をはじめ、入院先で行なわれるカンファレンスにも参加して情報交換を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から連携をとって対応している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護師やホーム長に相談し、医師との連絡・相談ができています。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも相談・連絡体制ができています。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	介護記録や申し送り等で常に時系列的变化をスタッフ間で共有し、医師の指示を仰ぐなど日頃から状態変化に対応できる体制となっている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬の内容等記載した処方箋の閲覧がいつでもできるようにし、必要時は申し送り等で注意喚起をしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬時は必ず、職員による2重チェックで飲み忘れ、誤薬防止に努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の変化を確認しながら対応している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬効果や状態観察を常に行いその都度医師に報告し、指示を仰いでいる。家族には病状変化による薬の変更など報告し、了承を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時や状態変化に合わせて医師、家族を交えカンファレンスを開きご家族のご意向を確認しているが、ご本人の意思確認まではできていない。	/	/	/	看取りには積極的に取り組み、家族や医療機関等関係者で方針を共有し、話し合いの内容は丁寧に記録をとっている。最期まで事業所全体で看取る体制が構築されており、お別れのときは職員・家族だけではなく、他の利用者も一緒に見送っている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	医師、家族を交えカンファレンスを開き、ご家族のご意向を確認し、職員にも共有している。	○	/	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	開設以来看取り介護をおこなっていることから、終末期の対応については平常と変わらぬ対応に努め、レベル低下に合わせてユニット長はじめ看護師、管理者、ホーム長などオンコール体制で医師と連携しスタッフを支えている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時に重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)を交わし理解を得ている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	カンファレンスを開きその都度、医師による説明が行なわれご家族様の思いや意思の確認を行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の心配ごとや思いを傾聴し、相談にのっている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職員研修を開催し、学ぶ機会を作っている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策など職員研修をおこない、マニュアルの作成などしているが訓練まではできていない。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	かかりつけ医からの情報や運営推進会議等で市の担当者による情報を得ている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報を共有してできている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	入居者はじめ職員もインフルエンザの予防注射を行なっている。ユニット出入りに手指消毒液とマスクを置き、感染予防の掲示を行なっている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会時や電話連絡の際にご家族の思いや心配事など傾聴し、相談にのっている。	/	/	/	事業所から家族へのお願いとして、積極的に面会を依頼しており、家族はよく足を運んでくれていると感謝しており、来訪時には声かけし、関係性を良好なものにしている。また、面会時間の制限を設けず、気軽に来訪してもらえるよう配慮している。毎月利用者の暮らしぶりを書面で伝えるほか、家族アンケートを実施している。職員の異動や入退職を含めた運営上の事柄について、家族に理解できるよう伝え方の工夫を行って欲しい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会に来やすいように電話を入れ、来られた際にはお部屋で一緒におやつを食べて頂いている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	電話やお手紙でお知らせして各種行事に参加していただいている。	◎	/	◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月お手紙やユニットニュースなどを発行し、ホームでの暮らしぶりをお伝えしている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	往診結果や体調の変化、受診前後の確認と報告、ご本人からの心配事など報告し、ご家族様からの質問やご要望などにも丁寧に答えている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ホーム入居してから落ち着いてきたことや話し相手が増えて、最近ではお手伝いもして下さるなどホームでの暮らしぶりをお伝えしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお手紙やユニットニュース、お知らせ文で行事のご案内など行なっている。職員の移動、退職については責任者以外は特におこなっていない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会の開催はできていないが、敬老会やクリスマス会年に1回の日帰り旅行などにご家族様の参加いただき交流が図られている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	ご家族と相談しながら安全に暮らせるように努めている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来所時や電話でお話をさせていただき、ご家族の心配ごとや気がかりなことなどお聞きし、丁寧に答えている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時には資料にそって丁寧に説明し、ご理解をいただいている	/	/	/	た
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	治療が優先されるケースではご家族様からの退去希望となり、それ以外では事前になんどもご家族とお話をさせていただき、退去先の確保が確認された段階で契約終了となっている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	ご家族様にご連絡、報告の上ご了承をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	町内の皆さんとは普段から気軽にご挨拶ができ、地域の1員として各種町内会行事に入居者はじめ職員も参加している。運営推進会議にも出席をお願いしている。	/	◎	/	事業所駐車場で開催している夕涼み会等には100名を超える大勢の地域住民が参加しており、事業所が地域で徐々に認知されてきたと実感している。今後は、公民館行事への参加についても検討しており、利用者がさらに積極的に地域へ出かけて行けるよう支援していく予定である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内の皆さんとは普段から気軽にご挨拶ができ、地域の1員として各種町内会行事に入居者はじめ職員も参加している。また、ホームが行なう夕涼み会には地域の子供達や若い方々、高齢の方々も参加して下さる。運営推進会議にも出席をお願いしている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の役員の方々の理解がすすみ、大変協力的で何かと声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	ホームの行事案内を地域にお配りしていることから何かの時に覗きにきてくれることがある。最近ではホームでユニクロの訪問販売が、ご夫婦で買い物にいられた。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	最近では町内会の方やホームのすぐ傍の住民の方が気軽に立ち寄っていただけるようになった。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	毎月1回近くの方がボランティアに連れられ、紙芝居や体操などでご入居者と交流されている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	運動会や盆踊りなど町内会の行事に参加している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の福祉祭りへの参加や防災訓練、町内一斉清掃に参加し、関係を深める取り組みを行なっている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	2ヶ月に1回開催し、町内会長や民生委員、包括支援センター、松山市、他の事業所(グループホーム)の参加を得ている。	◎	/	○	地域の方の参加は積極的で、近隣のグループホームからも参加がある。家族の参加が少なく、継続的に参加してもらえない点が、検討課題であると気づきを持っており、議題の工夫など参加者にとって有意義な会議にしたいと考えている。サービスの実際や評価への取組み状況を説明し、地域の情報交換やアドバイスなどの意見をもらい運営に活かしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	ホーム長や管理者、各ユニット長から詳しく話されている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	情報交換をおこない、出席者からアドバイスなどいただいている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	取組んではいるが、ご家族様の出席がなかなか進まない。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	実施出来ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ホーム長と職員は理念の共有をしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	理念を各ユニット毎に張り出し閲覧できるようにしている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修は希望者をつくり、参加してもらっている 内部研修は昨年までは時間外で行なっていたが、参加数が少ないため今年から昼間の時間帯にデイサービスの職員や利用者、ホームの入居者と職員が合同で研修	/	/	/	代表者は職員の悩みや相談に気軽に応じている。また、内外部研修への参加でスキルアップにつなげて欲しいと、就業環境の整備に配慮している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員研修を定期的に行なっている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	行なっている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	他の事業所の運営推進会議や地域密着型事業所交流会などにも参加して情報交換を行っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員から仕事上の悩みや健康面についての相談を受け、助言をしたり、要望を聞いている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に虐待防止委員会をひらき、該当事例がないか職員間で共有している。また研修を通して理解に努めている。	/	/	/	虐待防止に関する研修を年2回実施し、拘束廃止委員会での話し合いの様子も議事録で確認できる。不適切なケアが見過ごされることのないよう該当事例がないか振り返りの機会も持ち、対応方法や手順について理解がある。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々のショートミーティングで気になることを話し合い、毎月1回のユニットと会議でも取り上げ話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	研修会を開催し理解できるようにしている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員のストレスがないようシフト変更など調整している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員研修や2ヶ月に1回開催される虐待防止委員会でも取り上げ、拘束が行なわれていないか拘束に該当するような事例がないか点検している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	月に1回のユニット会議や2ヶ月に1回開催される虐待防止委員会でも話し合われている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの要望はなく、職員側の都合によることが多いのではないかと捉え、数年前からセンサー以外は全廃している。 またセンサーを嫌う方はナースコールを用意し、ご本人から必要時に呼んでもらっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	出来ない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	出来ない				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	出来ない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し対応している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的に訓練は出来ないが、実践力は身につけている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	介護記録や申し送り等でヒヤリハットがあったことを伝え事故の際には事故報告書を作成し、職員間で再発防止に向けて情報交換している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	職員間で情報を共有し、取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	報告書を作成し、全職員に分かるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合は管理者・ホーム長まで報告し、速やかに対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答し、サービス改善の経過や結果を伝え了承をいただいている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	ホーム長がほぼ毎日いつでも各ユニットを回り、ご入居者一人一人と挨拶を交わし、普段から遠慮なくお話ができる環境作りを行なっている			◎	利用者には生活の中で要望を聞いている。家族には、日常的に気軽に要望を申し出てもらえるよう声をかけ、家族アンケートを実施することで言いにくいことが伝えられるよう工夫している。利用者や家族ともに苦情が聞かれれば苦情受付記録を作成し、職員間で回覧して共有することで運営に活かしている。管理者はショートミーティングや会議などで職員の意見を把握し、利用者本位のケアにつなげている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時や電話等でお話しする際にご家族様から直接ご意見やご要望をお聞きしている。また、毎年1回アンケートを配布し、ご家族様からのご意見を頂き、結果を職員に周知改善に努めている。	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項にも記載し、ホームで改善できないときは公的窓口もあることを説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	常に現場に入り、職員の意見や要望・提案など個々に受けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日々のショートミーティングや会議で職員の意見を取り入れ利用者本位の介護ができるよう行なっている。			◎	

愛媛県グループホームすみれの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	出来ていない。				取組み内容や成果について運営推進会議で報告している。今後も理解しやすい伝え方を工夫し、取組みに関するモニターとして運営に参加してもらえることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	×	出来ていない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	×	出来ていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	評価結果については運営推進会議等で報告しているがその後ができていない。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し周知している。また、西消防署の協力を得て火災訓練や防災研修を年2回6月と11月に行なっている。				年に2回避難訓練を実施し、緊急連絡網の訓練も行っている。職員は地域の防災訓練に参加し協力・支援体制の構築に努力している。今後は火災訓練だけでなく様々な災害を想定した訓練の実施や避難経路の確認、備蓄品の点検などを含めた災害への備えに期待したい。利用者が安全に避難するためには繰り返しの訓練と家族や地域などの協力が不可欠で、協力・支援体制の構築を継続してもらいたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	火災訓練はおこなっているが、防災訓練はできていない。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消化設備等の点検は行なっているが、その他についてはできていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	町内会の取り組みとして本年から防災訓練が行なわれ、これまで2回の防災訓練に参加した。人数制限もあって入居者の参加ができなかったが、入居者の参加ができれば地域の方の意識も変わり、ご協力いただける環境ができるのではと考える。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域密着型事業所連絡会議や町内会の活動に参加して積極的に情報を得るようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていない				開設当初から地域との交流に積極的に取り組み、交流の輪は徐々に広がっていると実感している。地域住民からの相談には気軽に応じる姿勢があり、今後地域に情報を発信することで事業所の持つ力を発揮できることに期待したい。近隣の事業所や小学生の職場体験、職業訓練生の受け入れにも積極的で、地域活動を各機関と協働しながら行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	出来ていない。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	出来ていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他の事業所との交流や地域主催の福祉祭り等に参加してホームの活動を紹介している。			◎	